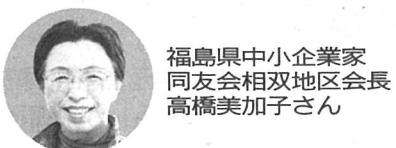


「私はね、ニュースの伝え方っておかしいって思うんだ」。仲良しの広畠裕子さんが、話し始めました。「20%の人が福島県産の食べ物を食べない」と言っているっていう報道があつたけど、それって80%の人は食べているっていうことでしょっ！なんでそれを先に言わないんだろう！そしたら伝わり方が全然ちがうじやん！」鮮やかな問題提起です。

原発事故とは放射性物質の無差別大量散布です。それは相双地方の住民の暮らしを粉々にしました。しかし以来三年間、私たちは「子どもに

## 東北復興日記

82



福島県中小企業家  
同友会相双地区会長  
高橋美加子さん



## 子どもの笑顔ある日常へ

未来をつなぐ」という強い思いで、さまざまな活動をしてきました。震災直後、全国から寄せられた保養受け入れの申し出を無駄にしたくな

いと、夏休みに千人ものお母さんたちの不安を

また、「みんな共和国」は何度もなかつた公園に冒険遊び場を創りだし、子どもたちがいきいきと遊びまわる姿に多くの市民が元気をもらっています。

どれも、最初はたった一人の思いから始まっています。

今、確信を持つて言えることは「人間にはどんな状態になつても生きよ

うとする力がある」ということです。私たちは原発事故で、普通の暮らし地とともに紡ぎだすままやかな日常の継続であることを思い知らざりましたが、地域の存続をかけて「子どもの笑顔あふれる日常」を取り戻すために動いています。どうぞ南相馬に来てください。そして、ここで感じたことを周りの人人に伝えてください。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結婚プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。